

津山松平藩では、役職ごとに業務日記を残しています。それらは町奉行日記であったり勘定奉行日記であったりするわけですが、そのときの奉行によって詳細な記録を残す人もあれば、ごく事務的な記録のみの人もあります。

今回取り上げる増見右門という人は、詳細な記録を残した町奉行で、製本されて残されている町奉行日記もほかの奉行のものより厚手になっています。そして単に詳しいだけでなく、増見右門の人物がうかがえるような記録を残したのでした。

さて8月1日は八朔といいますが、この日は徳川家康が初めて江戸に入ったとされる特別な日で、津山藩の家臣たちは津山城に総登城することになっていました。寛政7年（1795）8月1日、さちんと麻袴を着用した右門は、同じく麻袴を着用した若党を召し連れて登城し、先例どおり要職の人々にあいさつをして下城しました。

ところが、このことが思わぬ波紋を引き起こしました。8月3日、大目付伊達頼母は、町奉行が身分不相応に麻袴着用の若党を連れていたことを不審に思い、郡代三浦十郎左衛門に命じて内々に右門を問いただすように命じたのでした。

右門にしてみれば当然のことと想っているのですが、前々からの例に従ったまでだと答えました。すると伊達からは、明和元年（1764）の触れ書きによって、芥子之間以下の面々は年始・大礼を除いて麻袴着用の若党を召し連れてはならないとし、その触れ書きの写しが届けられたのでした。右門は早速、明和元年の日記や触れ書き控えなどを調べてみるのですが、そのような触れ書きはどこに

津山城百聞録

～増見右門の憤り～

も残されていませんでした。

右門にしてみれば落ち度はないと思っていますから、のちの人たちのためにもここで押し切られてはいけないと思い、長い弁書を認めて提出します。その中で町奉行には八朔での麻袴着用の若党だけではなく、ほかにも例外的な前例があり、長年にわたってそれらは受け継がれてきたものであると主張したのです。

しかしこうした主張は伊達には理解されず、弁書の書き直しと再提出が繰り返し指示されたのち、結局右門が前例の確認を怠ったことが原因であるとされました。右門としては納得できませんが、伊達と右門の間で取り次ぎをしている三浦への迷惑を心配して、自らの差し控えをうかがい出ました。ところがその必要はないということでは、はっきりとした結論は出まじとまず決着したのでした。町奉行日記に残された必要以上に詳細な記述からは、右門の憤りまでが感じられます。



▲津山松平藩ゆかりの袴
(津山郷土博物館収蔵)

5月中のひとの動き

人口	111,128人	(前月比+33)
男	53,045人	(同+11)
女	58,083人	(同+22)
世帯	43,324世帯	(同+38)
転入	297人	転出 265人
出生	94人	死亡 93人

(6月1日現在)



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください



つぶ・や・き

編集室

ただいまクールビズ実施中！ビズは「ビジネス（仕事）」ですが、クールは「涼しく」のほか「かっこ良く」という意味があるそうです。今年の夏、体のエネルギーはしっかり使ってください。型も「クール」にいきましょう。(凸)

昨年12月号でご紹介した和太鼓集団「鼓童」の坂本雅幸さん（市内油木下出身）が正規メンバーに！おめでとうございます！終始笑顔だった取材時とは一変した舞台でのするどい表情は今でも脳裏に焼き付いています。(X)



昨年7月号でご紹介した宝塚歌劇団の桜乃彩音さん（市内二宮出身）は、花組の娘役トップに！うれしいことですね。現在は宝塚大劇場で公演中。ということで、今月は友人と舞台を見に行きます。楽しみ～。(e)



つやま
広報
7月



編集・発行（毎月10日発行）
津山市企画部市長公室（市役所3階）
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>

